

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1876 号

A comparative study of intraoperative fluid management using stroke volume variation in liver resection

(肝切除における stroke volume variation を用いた術中輸液管理に関する比較検討)

北口 和彦 (きたぐち かずひこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、亜区域切除以上の開腹肝切除において中心静脈圧(CVP)に代わり一回拍出量変化(SVV)を指標として輸液制限を行う管理が術中出血量を減少させるか否かを検証することを目的とした前向き観察研究について述べたものである。肝離断時の SVV が目標値である 13-20%となるように術中輸液管理を行うことにより、術中出血量、術中輸血施行割合、周術期合併症(Clavien-Dindo 分類 Grade II 以上)は対照群に比較していずれも有意な減少を認め、一方でドライサイドの輸液管理を行ったことによる急性腎障害や塞栓性合併症の増加も認めなかったことから、肝切除における SVV を用いた術中輸液管理は有用かつ安全であると結論付けられている。また、中心静脈カテーテル留置を必要としないことからより低侵襲に術中管理を行うことができると考えられる。一般的な肝切除における SVV を用いた術中輸液管理に関する報告は未だ少なく、SVV の具体的な目標値を設定し、その有用性と安全性を示したことから、今後の肝臓外科領域の発展の一助となる可能性があり、臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。